

第5期雄武町総合計画前期基本計画 施策評価調書（兼政策評価基礎調書）

政策目標	2	ぬくもり・雄武		整理番号	18
基本施策	6	保健・医療の充実	評 価 責 任 者	保健福祉課長 山崎 佳之	
単位施策	1	主体的な健康づくりの促進			

1 施策の概要

基本方針	多くの住民が健康づくり活動に主体的に取り組めるよう、保健分野を軸に生涯学習・生涯スポーツ分野が連携して、様々な健康づくり事業を推進する。				
現状と課題	【現状】（平成21年度末）	【現状】（平成23年度末）			
	健康増進法の理念に基づき、住民一人ひとりが自らの健康は自らつくるという意識を持ち、多くの住民が保健分野のヘルスアップ事業、生涯学習・生涯スポーツなど健康づくりに取り組んでいる。	健康増進法の理念に基づき、住民一人ひとりが自らの健康は自らつくるという意識を持ち、多くの住民が保健分野での運動教室の他、健康ふれあいセンターを増築し、年間を通して生涯スポーツなどの健康づくりのための施設を充実した。			
	【課題】（平成21年度末）	【課題】（平成23年度末）			
	住民一人ひとりの健康づくりの実施に向け、保健分野を中心に乳幼児から成年層等他年齢層への取り組みを推進していくとともに保健分野のヘルスアップ事業と教育委員会の生涯学習・生涯スポーツ分野との相互補完により施策効果を高める必要がある。	住民一人ひとりの健康づくりの実施に向け、保健分野を中心に乳幼児から成年層等他年齢層への取り組みを推進していくとともに保健分野での運動教室事業と教育委員会の生涯学習・生涯スポーツ分野との相互補完により施策効果を高める必要がある。			

2 基本施策指標

指標1	指標名	健康づくりの事業の参加人数						
	定義等	保健施策事業の参加人数						
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							1200人
	実績値	993人（H18）	1491人	1225人	1657人	1693人		
指標2	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標3	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標4	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標6	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							
指標7	指標名							
	定義等							
	年度	計画策定時（H19）	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	目標値（H24）
	目標値							
	実績値							

3 単位施策を構成する事務事業の評価結果等

【貢献度の区分 A：高い B：やや高い C：やや低い D：低い E：なし】

No.	事務事業名	担当係名	23年度 決算額 (千円)	総合評価	今後の 展開方向	単位施策への 貢献度
①	歯科保健事業	保健係	558	A	継続/現状維持	A
②	食育推進事業	保健係	77	A	継続/現状維持	A
③	保健活動車更新事業	保健係	1,654	A	継続/現状維持	A
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						

4 施策の個別評価【A：評価が高い B：やや高い C：やや低い D：低い】

評価の視点	評価結果	理由、説明等
① 妥当性	A	住民一人ひとりの健康を守るうえで重要な課題であり、住民への基本的な意識や知識の啓発を図ることが必要な施策である。
② 有効性	B	乳幼児期の児童・保護者対象者においては、一定の効果があり有効であったが、保健分野を中心に成年層等の他年齢層への取り組みを他分野と協働していければ、なお一層有効である。
③ 効率性	B	事業実施については、連携のできていない分野もあったが、保健分野における事業は、必要性を考慮し、効率的な運用に努めた。
④ 公平性	B	保健分野の事業実施にあたっては、対象者へ広く周知を行い公平であったが、他の分野との連携が不足していた。
⑤ 町民意見の反映	C	保健分野の乳幼児健診・健康相談時にアンケート等で住民の意見を聞き、事業等に反映させているが、他の分野で対象年齢層等の意見反映がなされていない。

5 総合評価【A～D】

A：政策目標の達成に効果的であり、現在の施策を継続することが必要 等

B：政策目標の達成に効果的であるが、具体的な課題の解決に向けて一部取組を改善するなど、施策を充実することが必要 等

C：政策目標がほぼ達成されていることから、施策が一定の役割を終えつつあり、終期を見据えて縮減することが必要 等

D：(1)政策目標の達成に効果的であるが、事業構成が十分ではなく、新たな事業構築など取組を全体的に見直すことが必要 等

(2)政策目標の達成に向けた効果が認められないことから、施策の廃止も含めて抜本的に見直すことが必要 等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
B	B	
保健分野については、一定の効果があったが、他の分野との連携を図る必要がある。	同左	

今後の方向性

継続/拡充	継続/拡充	
住民一人ひとりの健康づくりのため、保健分野を軸に生涯学習・生涯スポーツ分野が連携して事業の拡充を図る。	同左	

*今後の方向性の区分

○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○終了 ○休止 ○廃止